

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成26年度病虫害発生予報第7号(10月)について

このことについて、病虫害発生予報第7号を発表したので送付します。

予報第7号

**トビイロウンカによる坪枯れの発生に注意しましょう！**

本年、トビイロウンカの発生が平年よりやや多く、一部で坪枯れが発生しているほ場があります。特に、収穫の遅い中晩生品種などでは被害が発生する恐れがありますので、ほ場での発生状況をよく観察し、多発している場合は、早急に防除を行って下さい。

(平成26年9月9日付 病虫害発生予察注意報第2号 参照)



写真1 トビイロウンカによる坪枯れほ場  
(平成26年9月29日撮影)

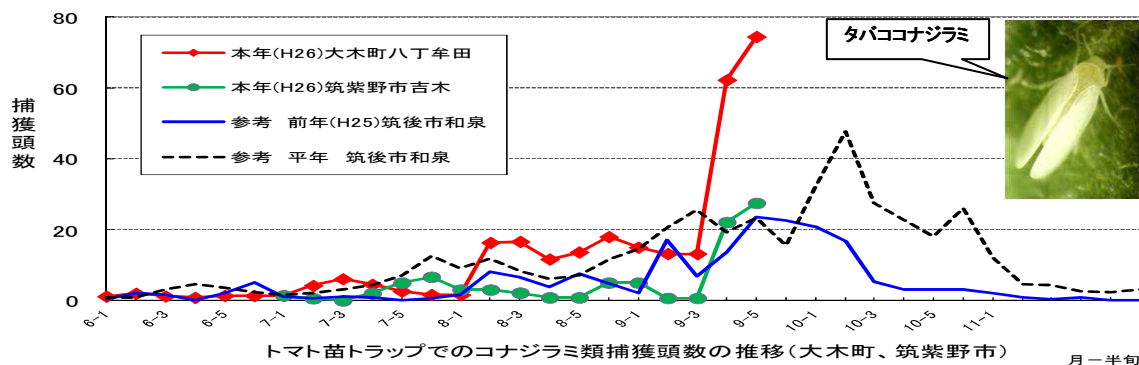


写真2 株元のトビイロウンカ  
(平成26年9月29日撮影)

**コナジラミ類のハウスへの侵入に注意しましょう！**

トマトの苗トラップで、コナジラミ類が急増しています。

タバココナジラミ(バイオタイプBおよびQ)により媒介されるトマト黄化葉巻病(TYLCV)は、トマトに大きな被害を与えます。施設栽培では、寄生がない苗を植え付け、ハウス内にコナジラミ類を持ち込まないようにし、空隙率が高い(糸が細い)0.4mm目合いの防虫ネットを設置してください。早期発見に努め発生初期の防除を徹底して下さい。



<予想される向こう1か月の天候（平成26年9月27日～10月26日）>

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年より高く、2週目はほぼ平年並、3～4週目は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間（数値は予想される出現確率）

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

（福岡管区气象台 平成26年9月25日発表抜粋）

10月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (10月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
大豆	吸実性カメムシ類	少	やや少	並
かんきつ	ミカンハダニ	並	並	並
かき	炭疽病	やや少	やや少	並
果樹共通	カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	(前々年比) 並	(前々年比) 並	少
冬春イチゴ	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	やや多 少 やや少	やや多 やや少 並	やや多 やや多 やや多

注：果樹共通・カメムシ類（チャバネアオカメムシ）の平年比について、現況は年次変動が大きいいため、類似年である前々年比としている。

作物別発生予報

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。それぞれの条件は、少発生（－）、やや少（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋を総合的に判断して発生量を予想しています。

## 【普通作物：大豆】

### 1 吸実性カメムシ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

主要3種カメムシ（アオカメムシ、イモヅカメムシ、ホハリカメムシ）

25株当たり払い落とし虫数 0.1頭（平年 1.0頭、前年 0.4頭）

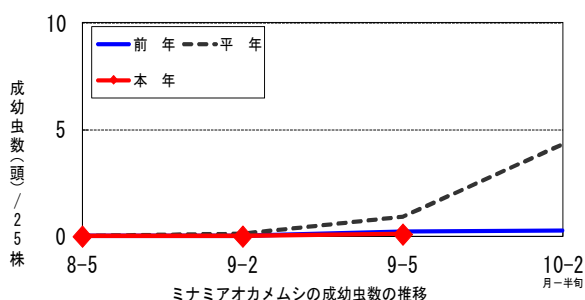
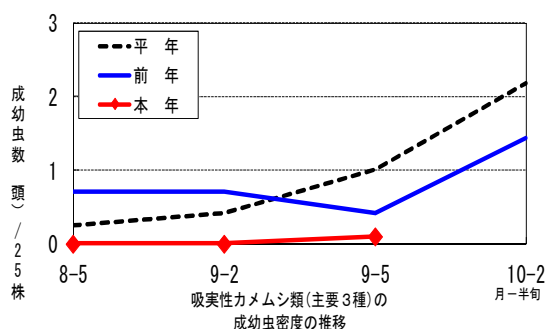
発生ほ場率 10.0%（平年 32.7%、前年 23.5%）

ミナミアオカメムシ

25株当たり払い落とし虫数 0.1頭（平年 0.9頭、前年 0.2頭）

発生ほ場率 10.0%（平年 16.7%、前年 11.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温の予報からやや多発生の条件となっている（±～＋）。



#### (3) 防除上の注意

ア 吸実性カメムシ類の加害は収穫期まで続くので、必ずほ場での発生状況の把握に努め、発生が多い場合は防除を行う。

イ 薬剤散布を行う場合には、薬剤が着莢部によくかかるように丁寧に散布する。

なお、カメムシ類は広範囲に移動するので、広域一斉防除の効果が高い。

ウ 10月に発生量が急増する場合がありますので、発生状況には十分注意する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 7の内容を確認の上、適切に実施する。

## 【果樹：かんきつ】

### 1 ミカンハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

寄生葉率 4.9%（平年 5.8%、前年 3.8%）

発生ほ場率 54.5%（平年 42.5%、前年 50.0%）

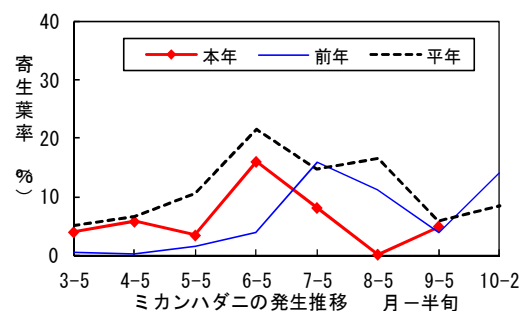
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

#### (3) 防除上の注意

ア 果実に寄生が認められる場合は、薬剤防除を実施する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 7の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。

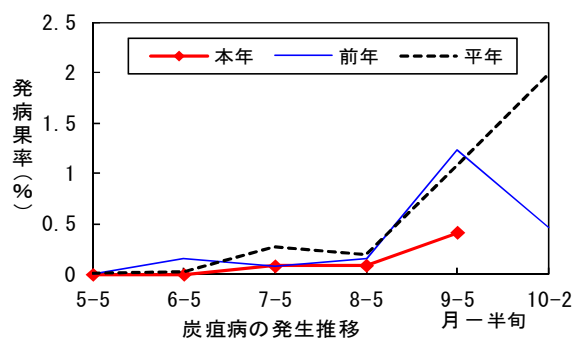


## 【果樹：かき】

### 1 炭疽病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並



(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

発病果率 0.4%（平年1.1%、前年1.2%）

発生ほ場率 33.3%（平年41.5%、前年46.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

(3) 防除上の注意

ア 伝染源である罹病枝及び罹病果はほ場から除去・処分する。

イ 台風等の強風雨が予想される場合や発生が多い園では、薬剤防除を徹底する。

【果樹：共通】

1 カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

(1) 予報の内容

発生量：前々年並、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 予察灯における9月1～4半旬の誘殺数は類似年の前々年並であった（±）。

予察灯によるチャバネアオカメムシ誘殺虫数

筑紫野市 883頭（前々年 787頭、前年 23,942頭）

朝倉市杷木町 90頭（前々年 236頭、前年 379頭）

イ フェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は類似年の前々年並であった（±）。

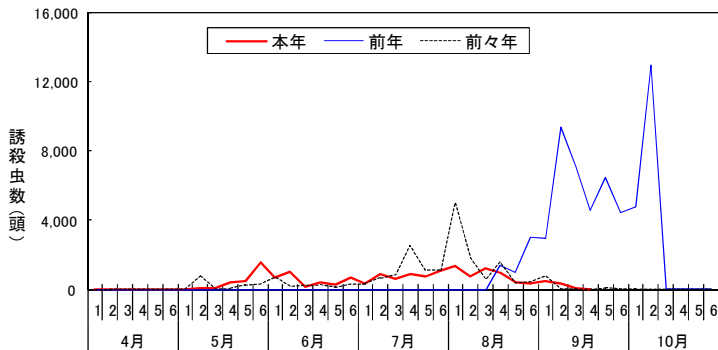
筑紫野市 237頭（前々年 559頭、前年 292頭）

ウ 向こう1か月の気象予報では、気温が高い見込みのため、今後もカメムシ類の活動が続くことが予想される（±～+）。

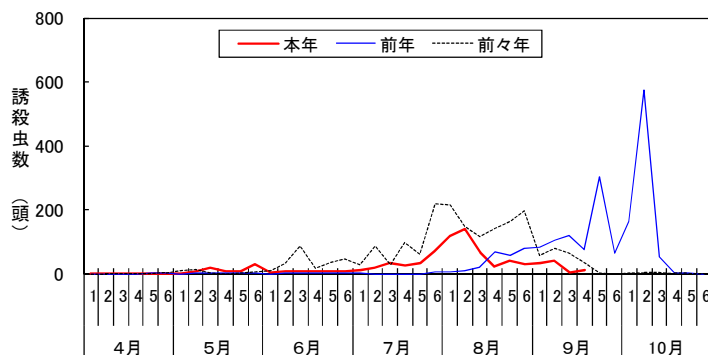
(3) 防除上の注意

ア カメムシ類は基本的に夜行性であるが、10月以降は昼間も移動し果実を吸汁加害するので、昼間の果樹園への飛来にも注意する。

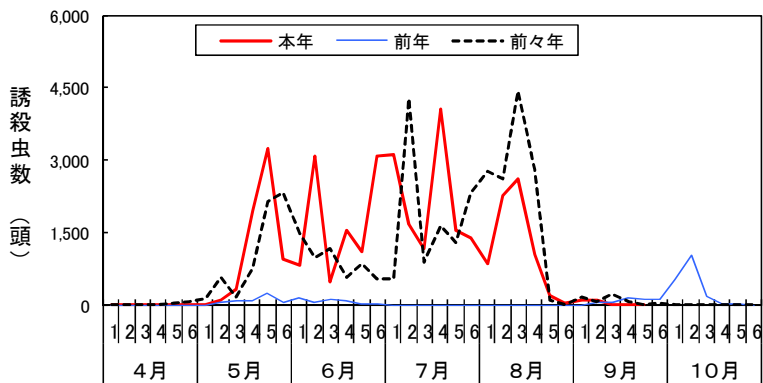
イ 最新のカメムシ類の発生状況については、病害虫防除所ホームページを参照する。



チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺虫数の推移(筑紫野市)



チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺虫数の推移(朝倉市杷木)



チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数(筑紫野市)

## 【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (10月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
カキ フジコナカイガラムシ	多	多	多	現在、フジコナカイガラムシの第3世代の齢期は揃っていないが、農薬散布を行う場合は園内を見回り、できるだけふ化幼虫の比率が高い時期に行う。

## 【野菜：冬春イチゴ】

### 1 うどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 9月5半月調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(±~+)。

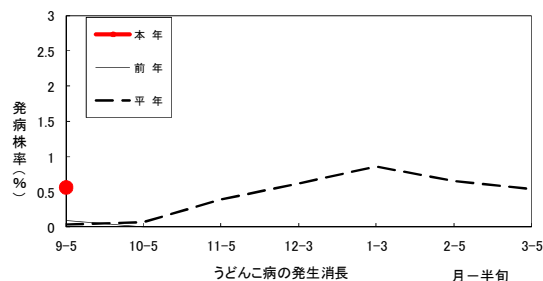
発病株率 0.6% (平年 0.04%、前年 0.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源である罹病葉は摘葉し、薬剤防除を徹底する。

イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p7の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



### 2 炭疽病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 9月5半月調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

発病株率 0% (平年 0.45%、前年 0.05%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

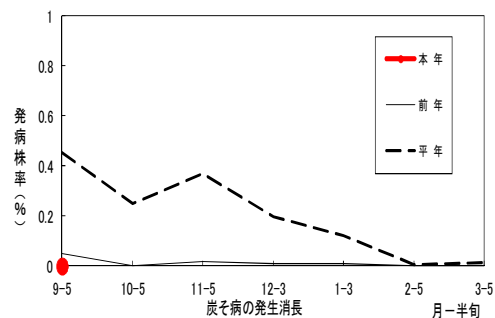
#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、残さを残さずに周囲の土ごと掘り取り、ほ場外に持ち出し処分する。

イ ビニル被覆までは、ハウス内で新たに感染する可能性があるため、定期的に防除を行う。

ウ ハウス内の排水を図り、多湿にならないようにする。

エ 無病親株の確保のため、余り苗は親株に使用せず、ビニル被覆期以降に発生する秋ランナーより採苗する。



### 3 ハダニ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 9月5半月調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

寄生株率 2.6% (平年 4.0%、前年 1.9%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温の予報から多発生の条件となっている(+)

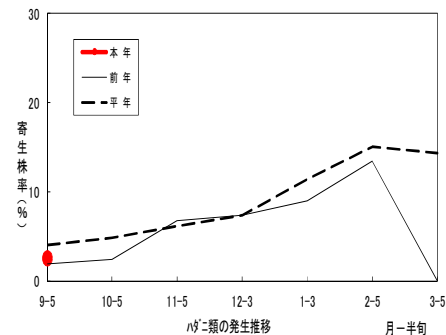
#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。

イ 防除は摘葉後に行うと効果的である。また、摘葉した葉や除去した雑草は、ハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密封し処分する。

ウ ハウス内と周辺の除草を徹底する。

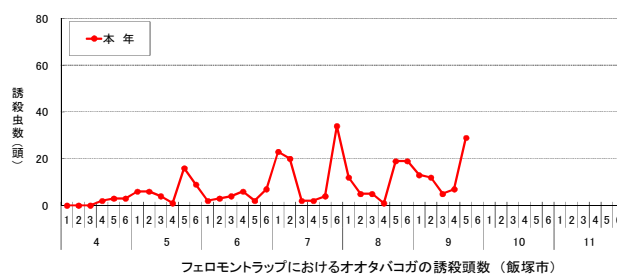
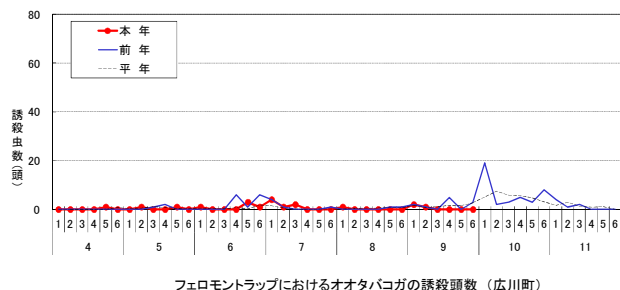
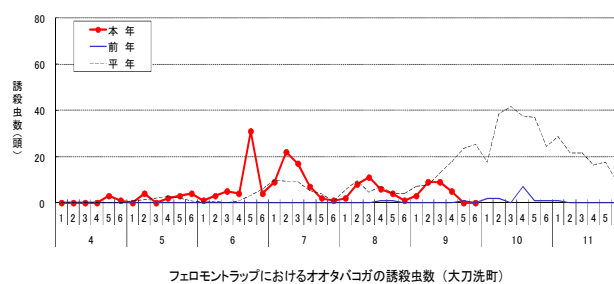
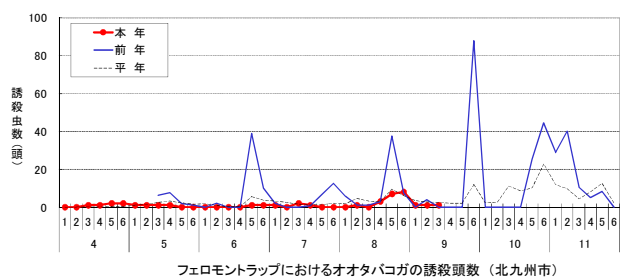
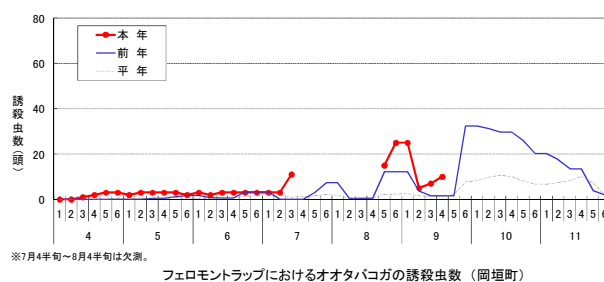
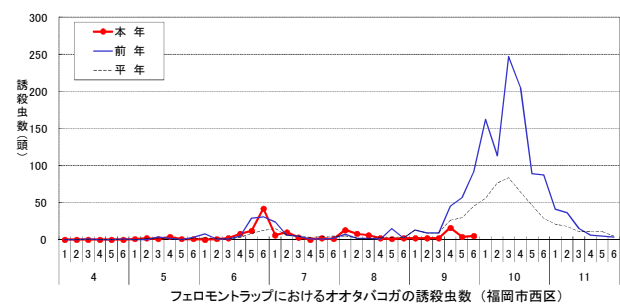
エ ビニル被覆後に天敵を利用する場合は、天敵類への影響が大きい有機リン系、カーバメイト系、合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。



## 【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (10月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
野菜共通				
ミナミキイロアザミウマ	やや少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内外の除草を徹底し、本種の増殖源を絶つ。</li> <li>・防虫ネット（0.4mm目合い以下）を展張し、定期的な薬剤散布を実施する。</li> <li>・若齢幼虫は群生しているため、かすり状の葉を見つけ次第、除去・処分する。</li> <li>・今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照のこと（以下の害虫についても同様）。</li> <li>・薬剤防除は、孵化直後の幼虫を対象に実施する。</li> <li>・早期発見に努め、初期発生のうちに防除を徹底する。</li> </ul>
ハスモンヨトウ	少	少	並	
オオタバコガ	並	やや多	並	
コナジラミ類	少	やや多	やや多	

\*コナジラミ類の発生現況は、巡回調査結果による。



注) 1. オオタバコガの誘殺虫数は地域差が大きいいため、グラフの縦軸の値はグラフによって異なる。  
2. 飯塚市は本年から調査開始。



# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

## 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

## 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

## 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

## 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。